

資料目録

## 宮原家文書目録

### 【凡例】

1. 本目録は、宮原堤氏が所蔵する宮原家文書の目録である。同文書は現在全て市史資料室に寄託されている。
2. 目録における表記は、原則として新字体を使用し、旧字体・異体字などは適宜改めた。ただし、原表題、一部の固有名詞および原史料からの引用部分（「 」を使用）については原文書の表記に従った。
3. 目録の記載項目は番号、史料名、年月日、作成・宛所、形態とした。各項目の詳細は以下の通り。
  - (1) **番号** 原則として、史料の原秩序に基づき番号を与えた。
  - (2) **史料名** 史料名は各史料の原表題を採録しゴチック体で示した。原表題がないものは〔 〕を用いて仮表題を与えた。史料の概要と一括状況などについては、史料名の後に明朝体で付記した。
  - (3) **年月日** 漢数字はアラビア数字に改めた。原文書に年月日の記載はないが、内容などから比定可能なものについては〔 〕を用いて注記した。
  - (4) **作成・宛所** 史料の授受関係は矢印「→」を用いて示した（作成者→宛所）。作成者が不明の場合は空欄とした。押印などの情報は削った。
  - (5) **形態** 一紙、縦帳、横帳、小横帳、綴、写真、折本、軸装の分類で採録した。綴は紙縫などで複数点の一紙物類がまとめられたものを示す。史料点数はいずれも1点である。
4. 本目録は、市史資料室ホームページ（<http://www.city.dazaifu.lg.jp/jouhou-bun/dazaifushishi/shishishiryoushitu.html>）と九州大学デジタルアーカイブ記録史料データベース（<http://record.museum.kyushu-u.ac.jp/search/index.html>）でのデータベース検索が可能である。

## 【解題】

宮原家は、近世期に大佐野村の庄屋をつとめ、明治初年には保長となった。明治22（1889）年の町村合併により水城村の大字大佐野となった後も大佐野区長や水城村の助役などを歴任している。

史料群は、近世の地方関係史料と近代の布達類、そして家所蔵の書籍類からなり、一部は『太宰府市史』近世資料編（平成8年3月刊）と『太宰府市史』近現代資料編（平成11年1月刊）にその翻刻が掲載されている。地方関係史料には軸帳と徳割帳があり、近世中後期以降の太宰府地域における貢租賦課台帳のあり方を示す史料として重要である。近代の布達類は大区小区制期の地域の状況をうかがうことができる。具体的には、県から戸長（大区）・副戸長（小区）を経て伝達された布告・布達を保長である宮原家側が写し取ったものであり、それらに対する報告・上申の案も含んでいる。また、書籍類には「国史略」「日本外史」「筑前国続風土記」などの歴史に関するものや、浄瑠璃本、明治期の教科書などがある。特に、浄瑠璃本は14点あり内容も豊富で、浄瑠璃本に関する書誌研究の観点からも注目される。近世から近代移行期にかけての太宰府の様相と、庄屋や保長をつとめてきた家としての教養の豊かさが分かる史料群と言えよう。

〔注記〕本目録は、市史編さんの過程で大賀郁夫氏・御手洗清氏（元市史編さん室嘱託職員）が作成した目録に、矢野健太郎氏（元市史資料室嘱託職員）が新出史料分を加えて作成した資料室公開目録をもとに、資料室太田黒真美が作成した。

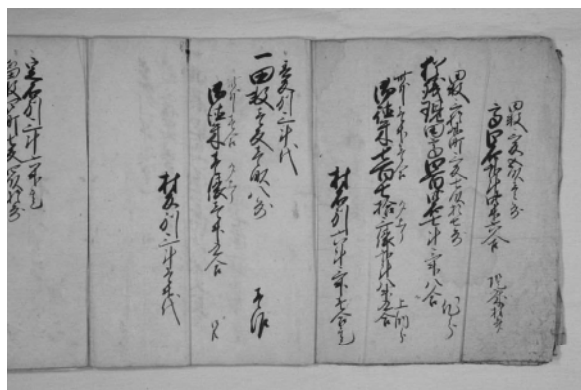


図1 御笠郡大佐野村軸帳（史料番号1）

村の田畑畝高（面積）・反別（一反あたりの年貢率）・石別（石高あたりの年貢率）などを書き記す。明和8・9年、寛政3年、享和2年にそれぞれ書き継ぎがあり、継続して利用されたことがうかがわれる。

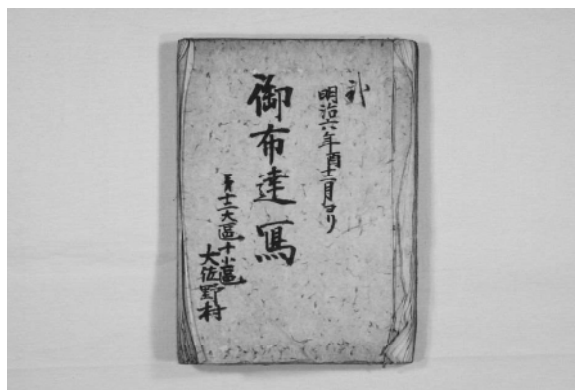


図2 御布達写（史料番号12）

表紙に「第十二大区小区大佐野村」とあり、「調所」（大区の役所）の下部組織であった「小区役場」の執務上作成されたことがわかる。

番号	史料名	年月日	作成・宛所	形態
1	御笠郡大佐野村軸帳 切立に関する明和7寅年の定あり	明和8年5月	同金次・同七郎次・同村組頭喜三次・大佐野村庄屋大三郎・山口村大庄屋利兵衛→永田伊左衛門様・庄野兵左衛門様	横帳
2	御笠郡大佐野村堤井樋唐戸軸帳 堤、井樋等の仕調方を記した控え	天明7年未3月		横帳
3	御笠郡大佐野村御徳割帳 大佐野村百姓36人分の上納高を記す	慶応2年寅6月	大佐野村組頭利吉・同源四郎・同與八・同村庄屋幸市→杉山来様・庄野甚作様	横帳
4	通附并公役付 支払い完済及び元利返済の滞りがないこと、地頭納物の品について	安政2年卯3月中旬	宮原伊太郎	竖帳
5	〔願書〕 樋掛直し材料等書上、寛政12年願出のもの	文化2年丑6月		一紙
6	〔宝暦十年辰八月御達書之内写〕 衣食住について儉約、耕作第一の心得の儀について大庄屋・庄屋への御達	文久2年戊正月	大里正高原善七郎美徳	軸装
7	〔田畑反別書上帳〕 番地ごとの面積・所有者の書上	明治6年11月	第十二大区十小区大佐野村保長大田久五郎・同宮原利三郎・十小区副戸長竹森慎作→福岡県令立木兼喜殿	横帳
8	明治八年地租改正調子諸費割方取立帳 保七伍長・惣代百姓の立会にて計算したもの	明治8年旧12月24日より25日		横帳
9	明治六年酉秋田方御検見大目論見略帳 番地ごとに早稲作・勝手作・中晩田など田の種類による内訳、表紙に「根」とあり	明治6年	第十二大区御笠郡十小区大佐野村	横帳
10	御布達 太政官布告や県令布達の写	明治6年5月より	第十二大区十三小区ノ内大佐野村	竖帳
11	御布告写 主に福岡県令や調所などから発布	明治6年9月30日より		竖帳
12	御布達写 太政官布告や県令布達の写	明治6年酉12月より	第十二大区十小区大佐野村	竖帳
13	御布達 主に福岡県令や調所などから発布	明治7歳5月より	十三小区役場	竖帳
14	御布達写 主に調所から発布	明治8歳9月より	役場	竖帳
15	諸願諸差出控 溜井新築の願いなど	明治8年12月より	六小区大佐野村	竖帳
16	宇野口新溜井築造二付村々手間替出夫丁場割 溜井築造にあたっての各村による負担事項、表紙に「根」とあり	明治14年巳の3月より	大佐野村	横帳
17	国税金収入簿 明治19年度畑宅山林税収入を収入月日・金額・税種・村名・姓名の項目で記載	明治19年8月20日より	宮原利三郎	竖帳
18	〔覚〕 竹槍一揆参加者・被害報告書の雛形	〔明治6年〕		綴（罫紙）
19	地租改正御旨意書	明治8年3月	福岡県	綴（罫紙）
20	警察署諸願届凡例 盗難届や自首など警察署への願届の雛形集	〔近代〕		竖帳
21	〔覚〕 「石高見当控」、氏名・字名・等級・平年小作料などの項目で記載	〔近代〕		一紙
22	〔覚〕 竹槍一揆参加者・被害報告書の雛形	〔明治6年〕		一紙
23	地券御渡奉願候事 地劣につき代償の見込みが立たないことについて	〔明治〕	筑前国御笠郡牛頸村川邊要七	一紙
24	〔地券御渡願〕 私所持の田畑地券譲渡の願出、組頭川邊要七の奥書あり	明治5年壬申9月	御笠郡牛頸村田中幸	一紙
25	〔覚〕 家持・借家軒数・男女人数等調査報告書雛形	壬申（明治5）年		一紙
26	田畑質入証券 金170円の質入証券			一紙
27	〔書状〕 夜学計算録紛失詫状	旧4月11日	宮原幸次郎→宮原栄蔵様	一紙
28	領収証 昭和7年8月～12月までの利息金9円24銭の領収証	昭和7年12月29日	大賀役場→大佐野宮原源蔵殿	一紙

30	忠良伊達鏡 卷ノ八～九 伊達騒動について、奥に「明治三年未五月七日小山町上利勅とめふ仕入」とあり			豎帳
31	貝原義質教ヶ條抜書 忠孝など儒教的な道徳についての教え	明治3年巳正月吉日	宮原虎吉	豎帳
32	国史略 卷之一、神代～持統天皇、奥に「江戸種臣」とあり	文政10季夏5月	皇都五車樓梓	豎帳
33	国史略 卷ノ二 文武天皇～花山天皇		皇都五車樓梓	豎帳
34	郡附并国名 筑前郡名、国名の書上	嘉永7年寅7月下旬	宮原伊太郎	豎帳
35	都巡記 比叡山・清水寺・東福寺などを巡る旅行記	嘉永4年亥3月	宮原瀧蔵	豎帳
36	〔庭訓往来〕 版本			豎帳
37	綿繰馬の段 浄瑠璃本、「源平布引瀧 三の切」収録、奥に「天保式卯歳ハジマトバ本主大塚忠右衛門」とあり		大坂船町天満屋玉水源次郎新版	豎帳
38	少女手紙の文 時節の挨拶の定型文など 奥に「大佐の高女官原はり枝」とあり	大正8年11月1日発行	中村春堂編書、辰文館発行	豎帳
39	渡米羅針 第壹篇 渡米のための手引き、願書書式・渡航者の心得など、奥に「宮原伝分」とあり	明治36年4月1日発行	東京交誼社発行	豎帳
40	新説日本史 全 奥に「宮原はりゑ所有」とあり	昭和6年2月8日	長沼賢海著、東京教育研究会発兌	豎帳
41	碁太平記白石噺七冊目 新吉原の段 下之巻 浄瑠璃本、「碁太平記白石噺七冊目」収録	明治11年寅6月吉日	大阪佐々井治郎右エ門・同堂嶋中三丁目榎並屋文蔵	豎帳
42	発明表作改良新書 麦作についての実用書・手引書	明治22年10月24日発行	斎藤司著、林斧介発行	豎帳
43	尋常小学新体読本 卷一	明治27年9月28日発行	金港堂書籍株式会社発行	豎帳
44-1	論語集註 卷一・二			豎帳
44-2	論語集註 卷六・七			豎帳
44-3	論語集註 卷八・九・十			豎帳
45	松永道齋記 上 徳川家康の遺訓集、奥に「主高取氏」とあり	宝暦11辛巳歳正月28日(写)		豎帳
46	在郷往来 庄屋の心得、農村経営の必須事項について	慶応元丑年2月	大佐野村善七	豎帳
47	開化文章大成 新歳之賀文などの手紙の例文集	明治27年年旧2月吉日	宮原源造拝	豎帳
48	〔武士訓〕 奥に「武士訓五巻応友人之需編輯之」とあり、前欠カ	〔正徳5年正月日〕		豎帳
49	速坐文章集 冠婚葬祭、時候の挨拶などの書簡例文集	嘉永4年亥12月	宮原瀧蔵	豎帳
50	風月往来 正月から歳暮までの毎月の時候、行事などの書簡例文集		中嶋亀吉	豎帳
51	〔箱崎宮縁起〕 箱崎宮の松、醍醐天皇宸筆などの由来記			豎帳
52	庭訓往来			豎帳
53	庭訓往来		宮原瀧蔵	豎帳
54	〔漢字手習い帳〕			豎帳
55	狐別れの段 浄瑠璃本、「狐別れの段」「大安寺の段」収録		大坂船町天満屋玉水源次郎新版	豎帳
56	萬国地理初歩 上 裏表紙に「大田市太郎」とあり	明治27年1月10日訂正再発行	学海指針社編	豎帳
57	益軒貝原先生編述書目 「慎思録六冊」「点例二冊」などの貝原益軒編著書の目録			豎帳
58	筑前国統風土記 卷第九		〔貝原益軒〕	豎帳

59	伊賀越道中双六 を収録	浄瑠璃本、「伊賀越道中双六」		大坂船町加嶋屋清助板	縦帳
60	三日大平記 九ツ目 の「松下住家の段」を収録	浄瑠璃本、「三日大平記」			縦帳
61	早引節用集 イロハ順の節用集、他に「男女名頭 相性文字」・「月之異名」などの附録あり	文政6年癸未年8月吉日	江戸日本橋須原屋茂兵衛他3名発行		小横帳
62	尋常小学習字帖	明治21年9月3日	宮本茂任編輯、博多鐵耕堂梓		縦帳
63	〔往来物〕				綴
64	〔教育勅語〕		皇道顕修会発行		折本
65	四聲字林集 部首と画数から引く漢字辞書	文政11年戊子夏4月11刻成	江府書林前川六左衛門他4名、摂府書林監屋佐吉他3名		縦帳
66	尋常小学習字本 尋常科第二年	明治20年9月訂正出版	吉田利行編輯、村田浩藏筆、林斧介他2名出版		縦帳
67	開化算法新書	明治12年8月18日出版	須田光義編輯、吉田庸徳校正、柳河梅次郎出版		縦帳
68	小学読本 第一 読本の教科書、裏表紙に「明治 十五年大佐野村御笠郡宮原房太郎」とあり		田中義廉編輯、那珂通高校正		縦帳
69	明詩礎 卷之上・下 漢詩集	明和3年丙戌正月再版	京華書林梓		縦帳
70	修正新体読本 卷七 尋常小学校教科書、表紙見 返に「明治三十四年宮原くま」とあり	明治34年1月11日修正六版	金港堂書籍株式会社編輯・発行		縦帳
71	仮名手本忠臣蔵 浄瑠璃本、「仮名手本忠臣蔵」 を収録	寛延元年辰8月14日	竹田出雲他2名		縦帳
72	加賀山旧錦絵 浄瑠璃本、「加賀山催旧錦絵 セツ目 長局の段」を収録		大坂心齋橋塩町角玉置清七新版		縦帳
73	愛護稚名歌勝関 浄瑠璃本、「愛護稚名歌勝関」 を収録	宝暦3癸酉年5月吉日	竹田外記他4名作		縦帳
74	双蝶曲輪日記・伊賀越道中双六・千本桜鮎屋 浄瑠璃本、「双蝶曲輪日記」「伊賀越道中双六」 「千本桜鮎屋の段」を収録				縦帳
75	玉藻ノ前旭袂 浄瑠璃本、「絵本増補玉藻前 三 段目 道春館の段」を収録		博多中島町船木弥助板		縦帳
76	窮理早合点 二編巻下 明治初期の物理学の教 本	明治6年12月発兌	書林宋栄堂（版本）		縦帳
77	〔写真〕 筑紫郡処女会發会式の写真、「筑紫郡水 城府大字大佐野処女会之求管理」の裏書あり	大正11年10月9日	二日市小林謹寫		写真
78	〔写真〕 卒業写真カ		〔小林写真館〕		写真
79	〔写真〕 卒業写真カ		小林寫眞館		写真
80	〔三日大平記〕 浄瑠璃本				縦帳
81	大学章句 四書五經の内のひとつの儒教の經典				縦帳
82	標註十八史略校本 卷之一、中国の歴史書、太古・ 三皇・五帝・夏・殷・周・春秋戦国まで		廬陵會先之編次、臨川陳殷音積、 遂軒関徳標註		縦帳
83	標註十八史略校本 卷之二 中国の歴史書、秦・ 西漢まで		前進士廬陵會先之編次、後学臨川 陳殷音積、大日本関徳標註		縦帳
84	標註十八史略校本 卷之五 中国の歴史書、唐代 まで		前進士廬陵會先之編次、後学臨川 陳殷音積、大日本関徳標註		縦帳
85	標註十八史略校本 卷之七 中国の歴史書、宋・ 南宋まで		前進士廬陵會先之編次、後学臨川 陳殷音積、大日本関徳標註		縦帳
86	字畫刪譌 貝原訓點 新刻四書 訓点を付した 四書の解説書、大学章句を収録	元禄12年端午日告成	島本尹弘蔵版		縦帳
87	〔福岡藩郡中法度〕 藩から大庄屋に出された「農 業一途」に出精すべきこと、忠孝奨励など三ヶ条 の触書、「宮原三郎分」とあり	文政元年寅ノ11月	藪弥三郎・永田十兵衛・上原源一 郎・八田九内・喜多村勘太夫・森 武左衛門・小河織部		縦帳
88	〔諸控帳〕 諸記録・筆記・書状などの控え、七社 奉幣使、武藝小傳、黒田長政書状などを収録	文化11甲戌のあきノ末 の中	松浪舎 魚留		縦帳
89	習字兼用 書翰文範	〔大正2年頃〕	小山左文二編 西脇美石書、松邑 孫吉発行		縦帳

90	修身小學卷之二 表紙に「宮原榮造」とあり	明治18年8月刻成	吉田利行編、林斧介出版	縦帳
91	新編塵劫記 和算書、裏表紙に「明治十年丑三月 宮原永造分第八大区二小区」とあり	天明6年丙午11月再板	浪華書林（版本）	縦帳
92	箱崎全破故 上 黒田騒動を題材とした読み物			縦帳
93	日本外史卷五、卷六			縦帳
94-1	國史略卷之三 挿入文書2点あり（大正8年5月27 日付の児島荒物店より宮原榮吉宛の領収書、明治 39年1月22日付の主戸宮原榮造の戸籍書）			縦帳
94-2	國史略卷之四			縦帳
94-3	國史略卷之五	文政丙戌季冬刻成 安 政丁巳仲秋再刻 慶應 乙丑仲冬三刻 明治辛 未仲冬四刻	藤井孫兵衛	縦帳
95	消息往来 書簡例文集	[明治5年前後]		縦帳
96-1	岡崎雪降段 伊賀越 八ツ目 浄瑠璃本、「伊賀 越道中双六」を収録		大坂船町天満屋玉水源次郎新版	縦帳
96-2	〔傾城阿波の鳴戸 八段目〕 浄瑠璃本			縦帳
96-3	〔増補恋八卦 大経師の段〕 浄瑠璃本			縦帳
97	〔黒田騒動記〕 黒田騒動に関する読み物、前後欠 3～28丁のみ			縦帳
98	〔手習い手本〕			縦帳
99	〔手習い手本〕			縦帳
100	俊基 五 日野俊基に関する読み物、宮原榮造の 奥書あり	明治2年己巳ノ4月	宮原虎吉	縦帳
101	〔漢詩〕 七言絶句の漢詩		華外山人録蕃舊製	軸装